

巻頭言

～変革と品質～

三菱電機株式会社 通信機製作所
所長 橋口 正哉



昨年 2021 年に弊三菱電機は創立 100 周年を迎えました。しかしながら残念なことに昨夏以降、品質に関わる問題が明らかになり、三菱電機マイコン機器ソフトウェア株式会社 (MMS) に従事する皆様及び関係の皆様にも多大なご心配をおかけしており、誠に申し訳ございません。この場をお借りし、改めてお詫び申し上げます。一方、継続している新型コロナ禍により働く環境も変化しており、ウイズコロナ、ポストコロナを見据えた変革も急務と考えています。私ども通信機製作所はこれらの問題、環境の変化に対し真摯に、スピード感をもって取り組んで参ります。

さて、事業を取り巻く環境が大きく変化している中、企業活動には今まで以上に「変革」が求められています。これは単に事案が起きたから、あるいは働き方が変化しているから行わなければならない受動的なものではなく、穏やかな環境であったとしても絶えず成し遂げなければならない能動的行動と考えています。私がソフトウェア関連で最近気になったトレンドが二つあります。一つはプログラミング言語 Python、もう一つはソフトウェア開発環境の話題が多く感じられた点です。いずれも私が SNS、WEB などを通しての印象ですので、実際ソフトウェア開発に携わられている方とは感覚が異なるかもしれません。ただ、私がなぜ二つの話題が心に残ったのかを考えたところ、いずれもソフトウェアによる機能実現を『品質良く』『より生産性を上げて』実現するための手段であり、それらは絶えず「変革」していると感じたからです。改善ではなく、これまでと異なる手法の出現と捉えたからです。

世の中は絶えず変化しています。先を見て既に起こっている変化の兆しを掴み、必要な技術を身に着けて備える。従来の延長線上の改善、これまでの常識にとらわれた手法のみではなく、新たな常識を自らつくりあげる発想の転換、変革を生み出す行動が、ますます重要になっていると思います。その行動ができれば、品質もおのずと追随してくると思います。誰も歩んだことのない道を進むには、周囲に注意を配り、その先に待ち構える危機を予測、対処しながら進む故、想定したとおりの結果が得られるはずです。

今、MMS 殿では、当社、三菱電機の経営戦略に示された事業分類にあわせ、防衛／交通／公共システム対応部門が有する信号処理技術、制御技術や通信技術の中核技術能力を空調冷熱システム、FA 制御システム、電動化／ADAS (Advanced Driver-Assistance Systems/先進運転支援システム) 対応部門に展開し、その一方で、空調冷熱対応にて育んできた IoT (Internet of Things/モノのインターネット) 技術を交通／公共システムヘフィードバック、さらに電動化／ADAS 事業における MBD (Model-based design/モデルベース開発) 技術を、

防衛・交通・公共システムへと、素晴らしいサイクルを回すことによりテクノロジードライバーとしてグループ全体の経営への貢献を目指されております。

設立 40 年を迎える MMS 殿にはソフトウェア並びにハードウェア、信号処理、通信、画像・映像処理、センサー、制御、計測、クラウド、ビッグデータ、セキュリティー、AI 等、これまで培ってこられた多種多様かつ高度な技術力があります。4 月の三菱電機ソフトウェア株式会社の経営統合に向けて、良き伝統・文化は継承しつつ、変えるべき伝統・文化・慣習、風土については創造的な破壊を果敢に実行、新たな働き方を含め、時代の求めに応じられるよう変革し「一人ひとりがプロフェッショナルとして、使命、役割責務を自覚、基本動作を徹底し、業務並びに製品の品質を常に向上していくこと」、これらの継続的な実践を、自らの力を信じて進まれることを期待します。

MMS 殿の 3 つの経営ビジョン『組込み実装技術の業界ナンバーワンを目指す』『グローバルに通用する技術力・品質力を目指す』『「新たな価値」「更なる価値」の創出を目指す』を、4 月からの新会社へ引継ぎ、また一緒にいる他社の良いところも吸収し相乗効果を得て、そして「変革」を興して更なる高みへと、三菱電機グループとしてともに研鑽し歩んでいきましょう。

以上